

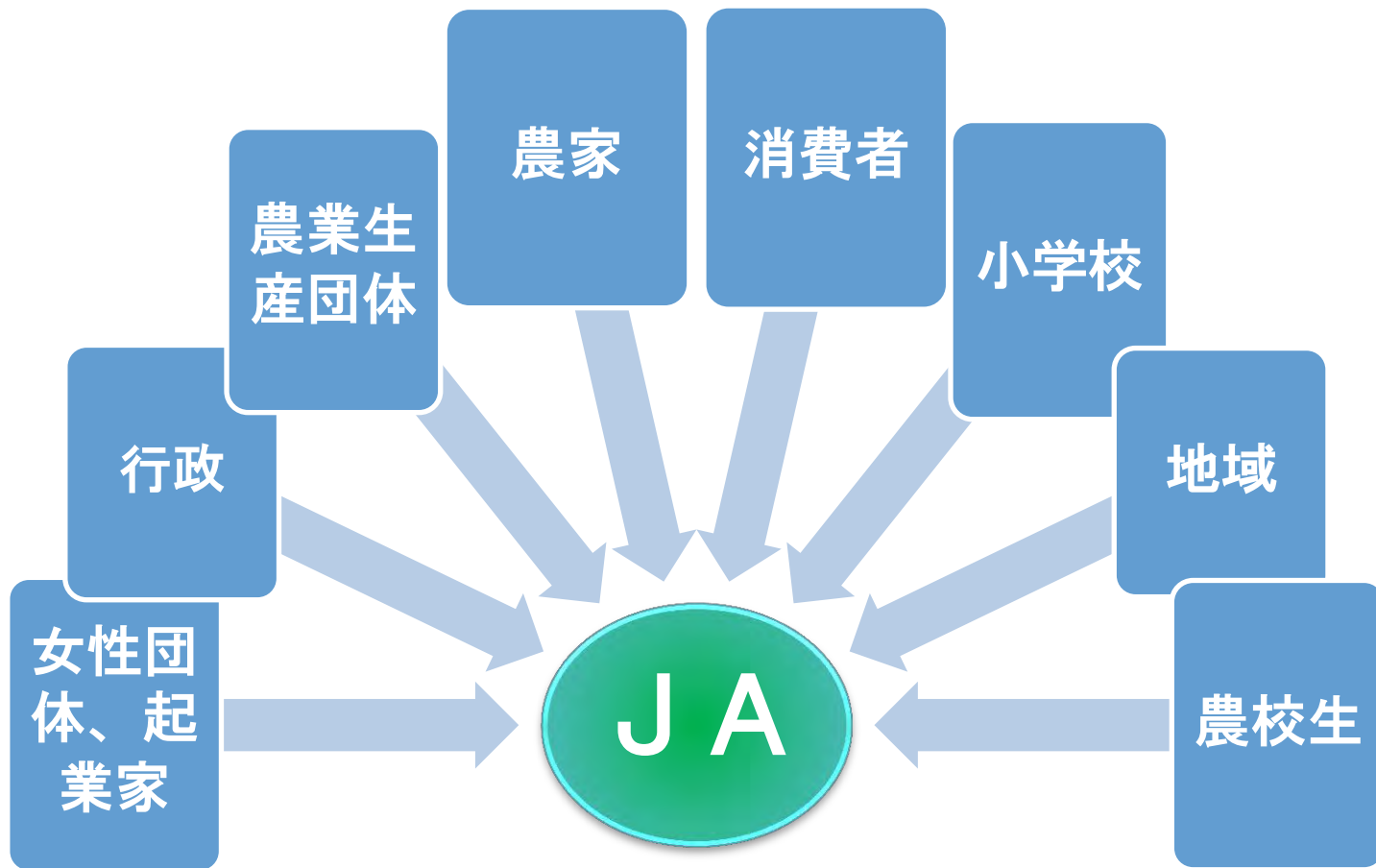
③参加者、関係者の声を反映

実施後は参加者が、体験項目を3段階で評価します

評価内容はすべてを体験先に伝えます

添乗者も提案を行い、次年度に活かします

④ 多くの人に関わる取り組み



⑥ 1年前に構想、システム化

体験の終了後すぐに

アンケート結果を報告、体験先、添乗者から意見徴収



9月～10月に次回の大まかな構想を企画

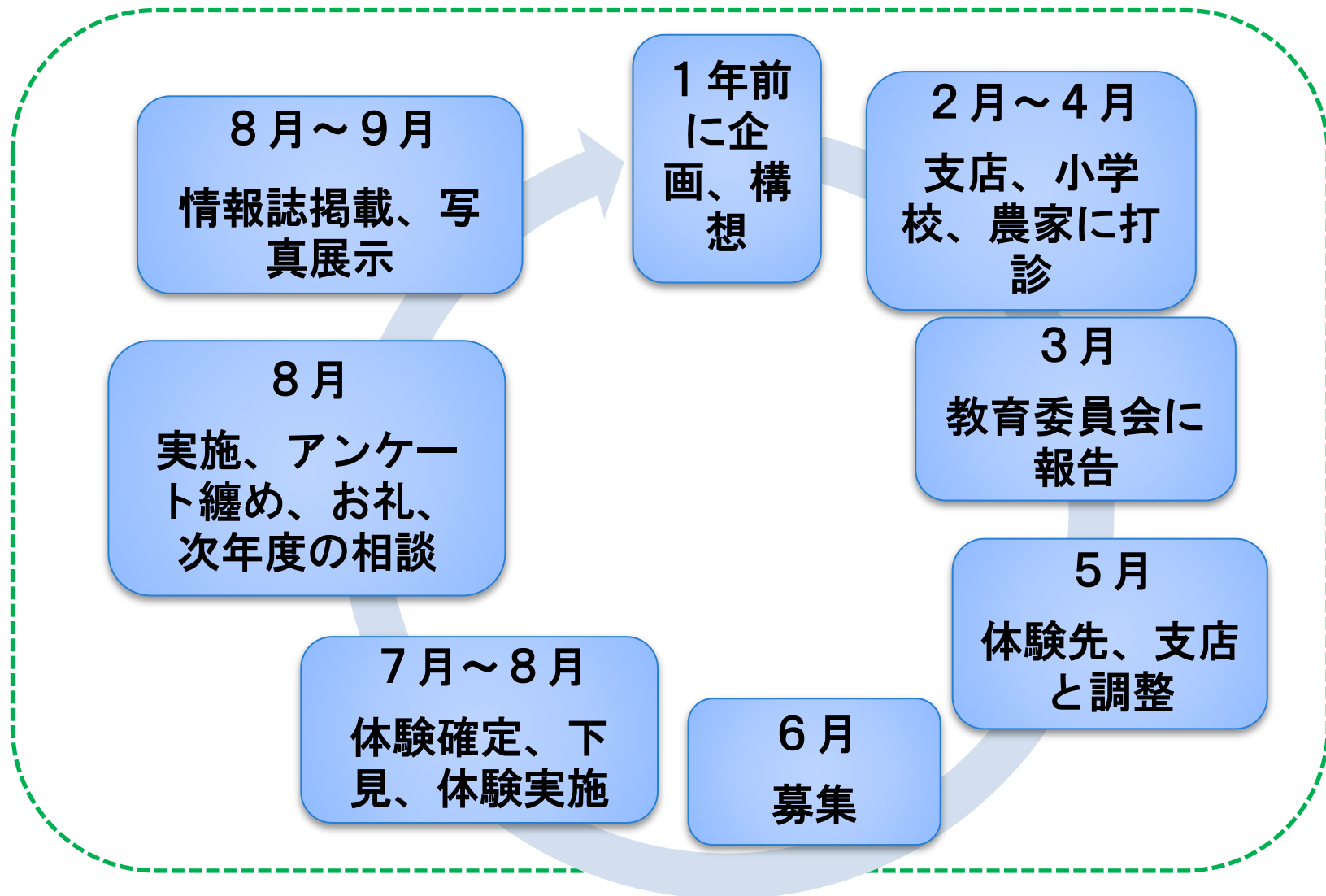
体験数、体験内容等の構想



2月～4月にスケジュール作成

行政訪問、調整、各会議日程、下見、実施日、お礼

年間の行動をシステム化



⑦有料で実施

- 参加者からは、体験にかかる実費の一部を頂きます。
- 企画はJAで行います。
(JAが提供する商品サービスのひとつです)
- ※全額JA負担での実施も考えられますが、無料での実施は、お互いの妥協点が低くなり、次への向上心につながりません。

取り組んだ経緯



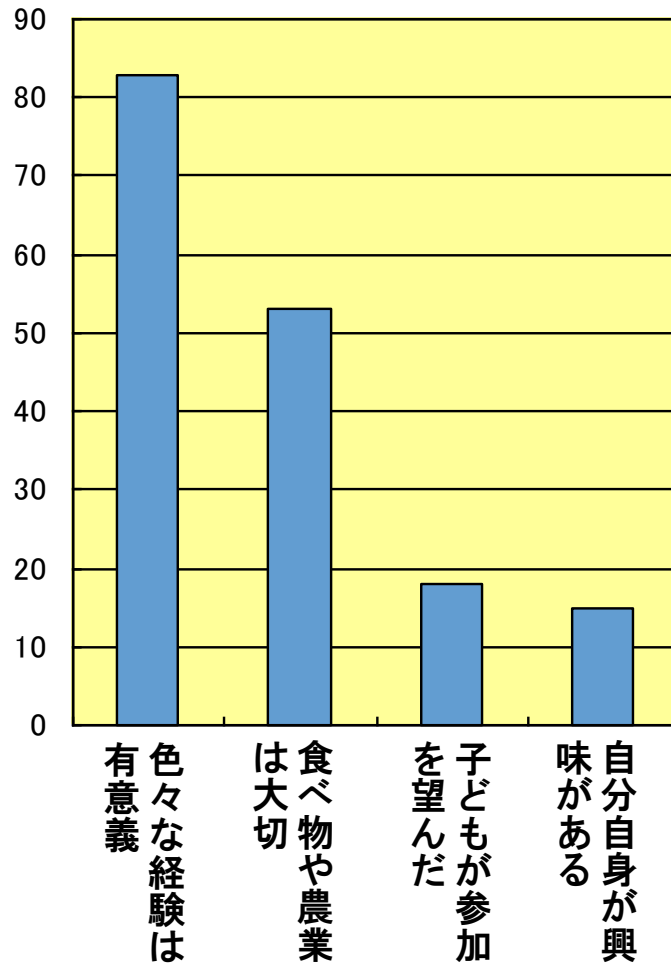
- 食と農はJAの基本
- 地域と人を、食と農で元気にしたい

広報で構想、金融で立案、支店で実行

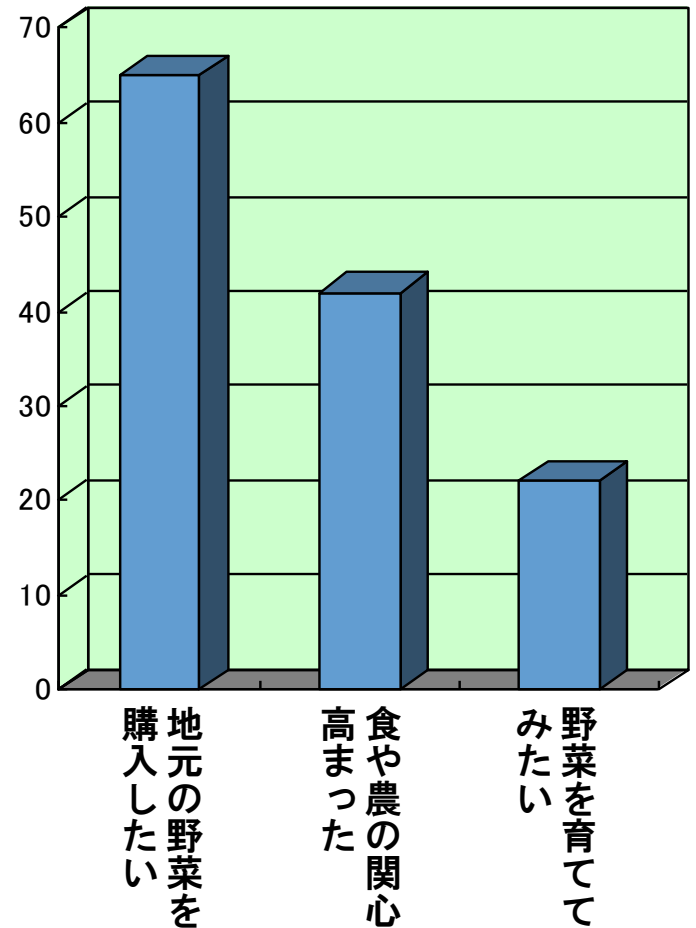
- ※JAの総合事業、資源を活かしたい
⇒JAだからこそできることがある
- ※多くの方が関わり「ありがとう」と
言ってもらいたい⇒誰も損をしない
- ※食べ物や農業に関わることで、JA
が他に遅れは取れない
⇒地域の中でのJAの役割
- ※スーパーの野菜しか知らない、採り
たての味を知らない人が多い
⇒食農体験を、親も子供も地域も求
めている

農業体験の結果（親編）

【参加した理由】



【体験後の変化】



参加者の声（親編）

農産物の収穫は、テンションが上がる

収穫の大変さが、つくづくわかった

一生懸命収穫して、汗をかくのは気持ちよい

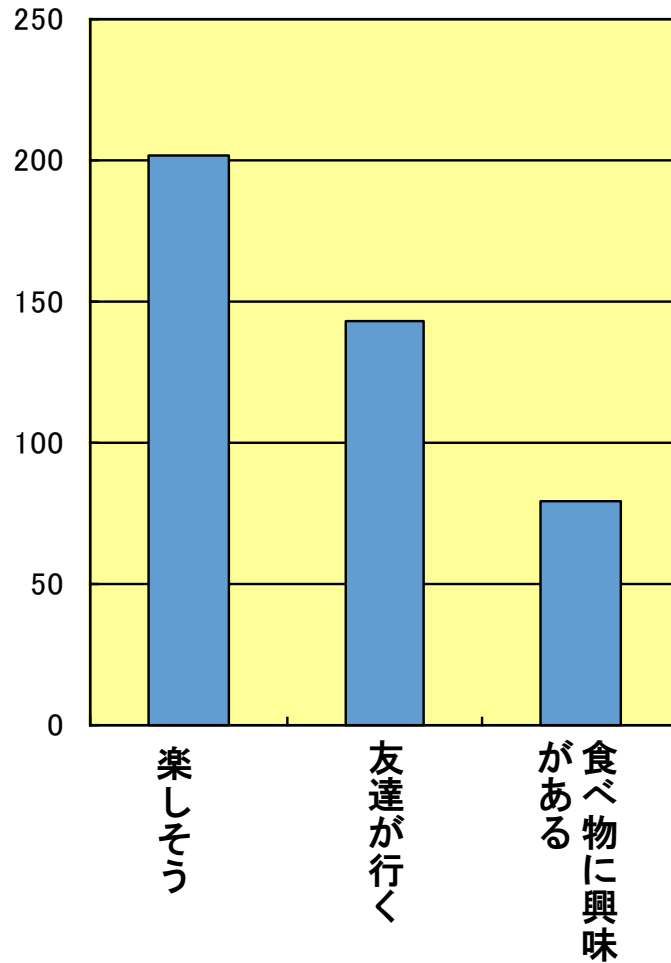
また子供に、こんな素敵な体験をさせたい

買って食べるだけでは見えない、貴重な体験

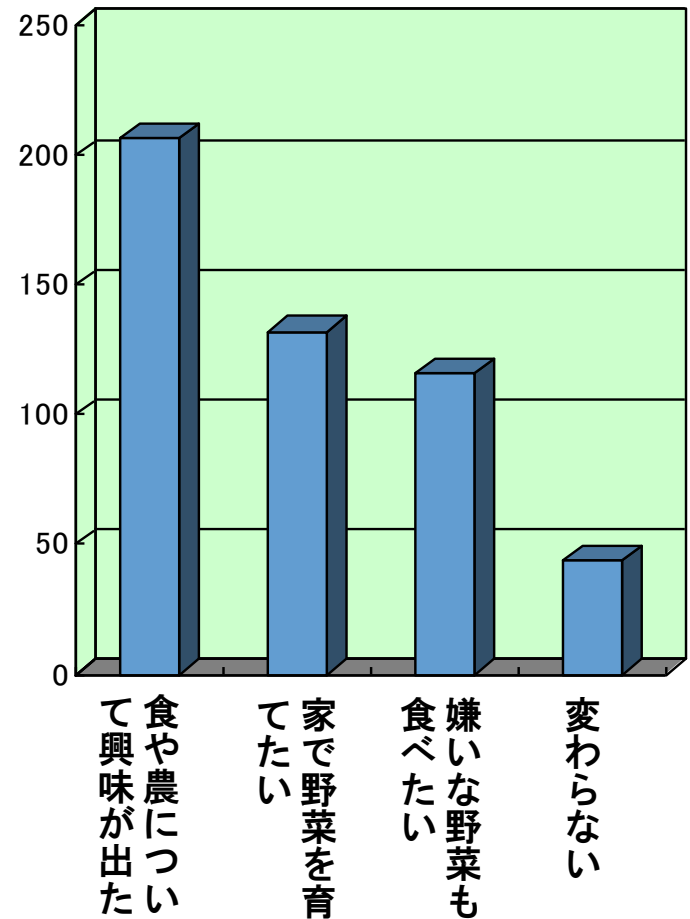
子供の喜ぶ姿を見て、幸せな気分になった

農業体験の結果（子供編）

【参加した理由】



【体験後の変化】



参加者の声（子供編）

不思議なこと、驚くこと、大変だなと思うことの連発

トマトは嫌いだったけど克服できた

野菜の大切さがわかった。ご飯のときにモリモリ食べたい

農業のことを、家族に教えたい。きっとびっくりすると思う

野菜を収穫して笑顔になれた

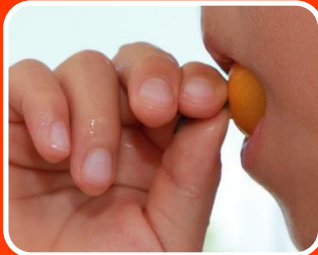
みんなで協力したら『おいしい』ことがわかった

農業体験の成果、広がり



地産地消

- 地場農産物に関心が高まった
- 野菜嫌いが直った



交流

- 生産者と消費者のつながり
- J Aの役割の認識



話題性

- 地域と人、農業を元気にする取り組み
- マスコミや情報誌で地域を紹介